



※令和5年度より、7年から5年に短縮

樹木医Q&A

卷之三

樹木医研修の対象者(受講資格者)は、樹木の調査・計画・設計監理・維持管理業作業や診断・治療など樹木の保護・育成に関する業務経験が5年※以上の方、及び樹木医師の資格を有し、認定後の業務経験が1年以上の方で、日本緑化センターが実施する「樹木医研修受講者選抜試験」に合格した方です。

树木医には何を
どこまでお願ひ出来る?
庭木から天然記念物まで樹木に
関することなら、調査、診断、提案
見積り、治療、管理などなど相談出
来ますが、樹木医によつては専門
分野、得意分野があります。
料金はどうなりますか?

らの依頼だった。すぐに駆け付けたものの、そのマツは枯死寸前。宗實さんは手段を尽くし、マツは異例の延命をとげた。同年大晦日、お父さんが亡くなった際、愛したマツの枝をひとつに入れたそ�だ。



姫路市夢前町出身。有限会社エコネット・むねざね代表取締役。2007年樹木医資格取得。業務は、樹木診断・治療業務／講演・研修指導。「樹木医YUKU校」で後進の教育にも取り組んでいる。
（写真左上）防中ネットが張られたナラガシノ（写真右下）命をつなぎ、成長して帰ってきたある家族のマツ

**才の価値は
人の思い入れが決める**

着き樹皮下を食い荒らす宗實さんは関西を中心に全国を駆け回り、予防と防除の大切さを訴えている。

えるたくさんの枯れた松の木

元セラミック加工技術エンジニアという、ユニークな経歴を持ち、天然記念物から思い出の庭木まで、日本中を飛び回って樹木の命を守り続ける樹木医・宗實久義さん。そのおじごとについて伺いました。

57歳で樹木医になつた きつかけとは？

元セラミック加工技術エンジニアという、ユニークな経歴を持ち、天然記念物から思い出の庭木まで、日本中を飛び回って樹木の命を守り続ける樹木医・宗實久義さん。そのおじごとについて伺いました。

自然の理にかなつた最新技法で
樹木を護る「木のお医者さん」

information
(有)エコネット・むねざね
業務内容
樹木診断・治療収穫・講演・研修指導
樹木医YUKU校
会社名／有限会社 エコネット・むねざね
代表／宗實 久義(ムネザネ ヒサヨシ)
設立／平成15年10月16日
住所／〒671-2131
兵庫県姫路市夢前町
戸倉281-1
HP
<https://mune-eco.net>





いる何とか彼女たちが見つかることで、マツを生かして欲しい」との依頼だった。しかし、その時点でマツはすでに瀕死の状態。宗實さんは生き残っている枝から松ぼっくりを採取し、そこから数個の種を取り出して発芽を試みた。その種は新しい2本の命を芽吹き、成長した苗が夫婦の家へ里帰りした2016年、最後まで見つからなかつた孫娘が見つかったという。

家族のマツから命を継いだ2本の苗木は今、美作の家と福島の母子の自宅跡でそれぞれすくすくと成長している。

を何とか助けたいと「松枯れ予防ネットワーク」を結成した。元のキャラリアを生かしてマツの枝に電気を流し、害虫を感電させる手法をメーカーと共に開発、全国に広めた。

扱う樹種や治療法を広げ、本格的な活動を開始。その頃ナラ枯れ被害が深刻で、宗實さんは京都御苑(京都市)や応聖寺(福崎町)、諭鶴羽神社(南あわじ市)などの歴史ある樹林へ駆け付け、薬剤による治療や防虫ネットの設置など、様々な対策を講じたという。

宗實さんが今、最も警戒するのは、地元兵庫県や大阪府、徳島県でサクラやモモなどに大きな損害が出ている「クビアカツヤカミキリ」の被害。その幼虫は数年間幹の中に住み